

筑波大学健康医科学イノベーション棟概要

筑波大学健康医科学イノベーション棟は、近年の我が国における少子・高齢化、地域医療の向上、生活習慣病の予防・克服などの課題に対応するため、国の最先端研究開発支援プログラムの中心研究者である柳沢正史教授をはじめ、本学の医学医療系や人間総合科学研究科などを中心に、先端医療領域における新たな学問分野の創出、臨床への応用・橋渡し、新たな産業の種の創出、未来の医学を開拓する想像力豊かな人材育成を行うため、平成21年度補正予算及び大学の自己資金により、筑波大学医学地区に建設されました。また、このたび、8階講堂の整備も完了の運びとなりました。

さらに、この棟が建設されたことにより、これまで懸案であった医学地区の教育研究環境の狭隘化にも改善が図られております。

健康医科学イノベーション棟は、少子・高齢化社会における緊急課題である地域医療や健康科学に関する社会からの要請に応えるため、食医学、看護・介護医科学、テレメディスン及びスポーツ医科学などの分野に関する研究開発を計画的、学際的に推進し、社会に貢献してまいります。



【施設の概要】

所在地	茨城県つくば市天王台1-1-1
敷地面積	413,082㎡
構造・階数	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上8階建て
建築面積	1,099.78㎡
延べ面積	7,503.87㎡
高さ	36.8m
工期	平成22年3月～平成23年3月

